

**令和5年度指定
WWLコンソーシアム構築支援事業
(地域アドバンスト・ラーニング・
ネットワーク構築のための委託事業)
事業報告書
第1年次**

令和6年3月

国立大学法人大阪教育大学

目 次

I.	事業概要	
	事業計画書	1
II.	事業報告	
	(1) ホームページ	7
	(2) ミニフォーラム等	7
	(3) 高大連携事業	15
	(4) 教員向けフォーラム等	15
	(5) 成果報告会（国際会議）等	16
	(6) 広報及び人材育成校の拡充	16
III.	会議報告	
	1 地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク関西ブロック推進委員会	17
	2 アドバンスト・ラーニング・ネットワーク拠点校会議	19

I. 事業概要

様式第1（事業計画書）

事業計画書

令和5年4月14日

支出負担行為担当官

文部科学省初等中等教育局長 殿

（受託者）住 所 大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1
名称及び 国立大学法人大阪教育大学
代表者名 学長 岡本 幾子

I 委託事業の内容

1. 事業名

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業
（地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク構築のための委託事業）

2. 事業の目的

将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベーティブなグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働する仕組みであるアドバンスト・ラーニング・ネットワーク（ALネットワーク）が全国に構築されている。それらのうち、関西地域に配置された拠点校を中心とするALネットワーク間の連携を進め、イノベーティブなグローバル人材育成を行っている高校にも取組を拡大させ、WWL事業全体の効果的な実施に資することを本事業の目的とする。

3. 事業の実施期間 委託を受けた日から 令和6年3月31日まで

4. 事業の方法

本事業の趣旨は、関西地域の高校が連携することにより、生徒が互いに刺激し合うとともに、新たなカリキュラムとその実現に向けて教員の資質を向上させることである。その目的のためには、例えば探究活動の発表会においては各ALネットワークが相互に連携しあうことが必要であり、異なる高校の教員間の情報共有を行うことが鍵となるなど、コミュニケーションの質と量を向上、維持させることが課題となる。コロナ禍を通じて活用が広まったオンラインによる議論などの利点、欠点を十分にふまえ、積極的な対面活動も併

用しながらコミュニケーションを図っていく。

I 域内の構成

●地域ALネットワーク関西ブロック（以下、関西ブロック）

関西ブロックは以下で構成されている。

・ALネットワーク管理機関及び（カリキュラム開発）拠点校・連携校

<管理機関>

国立大学法人大阪教育大学

学校法人立命館

大阪府教育委員会

神戸市教育委員会

学校法人関西学院

京都府教育委員会

学校法人同志社

学校法人永守学園

奈良県教育委員会

滋賀県教育委員会

<拠点校>

大阪教育大学附属高校平野校舎

立命館宇治高校

大阪府立北野高校

神戸市立葺合高校

関西学院高等部

京都府立鳥羽高校

同志社国際高校

京都先端科学大学附属高校

奈良県立国際高校

滋賀県立彦根東高校

・イノベティブなグローバル人材を育成する高校（以下、人材育成校）：以下の 20 校

《滋賀県》 滋賀県立東大津高校

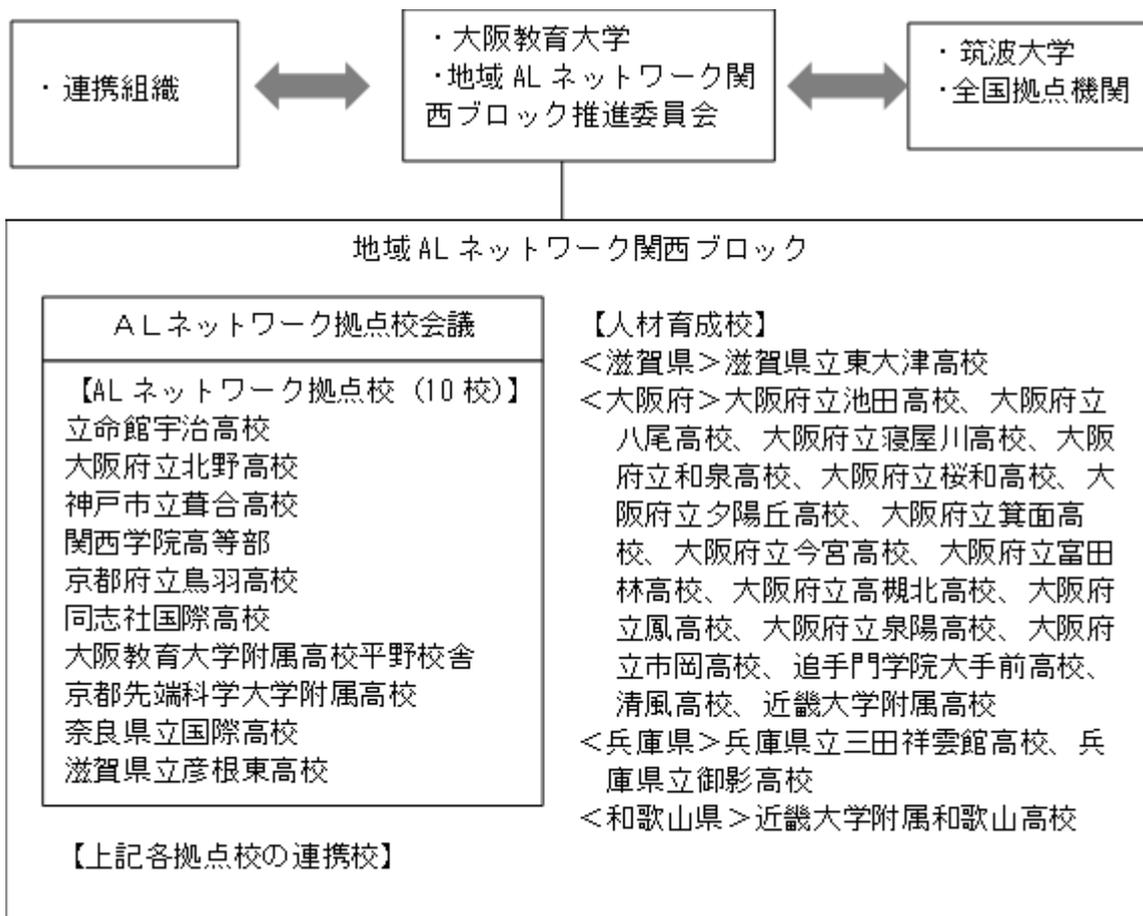
《大阪府》 大阪府立池田高校、大阪府立八尾高校、大阪府立寝屋川高校、大阪府立和泉高校、大阪府立桜和高校、大阪府立夕陽丘高校、大阪府立箕面高校、大阪府立今宮高校、大阪府立富田林高校、大阪府立高槻北高校、大阪府立鳳高校、大阪府立泉陽高校、大阪府立市岡高校、追手門学院大手前高校、清風高校、近畿大学附属高校

《兵庫県》 兵庫県立三田祥雲館高校、兵庫県立御影高校

《和歌山県》 近畿大学附属和歌山高校

ALネットワーク管理機関及び（カリキュラム開発）拠点校はカリキュラム開発を通じて得られた成果物を提供し、作成するホームページに情報を提供する。共有された情報を基に拠点校や連携校はこれまでの活動の発展に活かすことも可能となる。人材育成校は共有された情報を基に自校での取組に活かすことや各拠点校等で実施している発表会や教員向けフォーラム等への参加を通じて、イノベティブなグローバル人材育成に必要な授業や生徒に対して多くの学びの機会提供を受けることを通して、人材育成を行う。

II 事業のプラットフォーム



運営、情報共有体制の中心となるのは、大阪教育大学に設置される地域ALネットワーク関西ブロック推進委員会（以下、推進委員会）である。推進委員会はALネットワーク拠点校会議（以下、拠点校会議）と連携を取りながら、事業を通じたコンテンツの提供の方針等の策定を行う。推進委員会の企画とALネットワークの資源を関西ブロックに提供する。関西ブロックには拠点校からなる拠点校会議を置き、相互の連携を図る。

III 事業の具体的内容

（1）ALネットワーク間の連携

①推進委員会（年2回程度）の開催

事業の推進にあたっては、本学の教員を中心に推進委員会を設置し、関西ブロックの統括・連携及び、ミニフォーラムをはじめとするコンテンツの提供の方針を策定する。

②拠点校会議（年3回程度）の開催

関西地域のALネットワークカリキュラム開発拠点校または、拠点校から構成される拠点校会議を開催する。関西ブロックの情報共有を推進し、推進委員会が策定したコンテンツの提供の方針を基に、コンテンツの共有に向けて実施計画を策定するととも

に、次年度以降の事業のあり方について検討を行う。なお、実施計画は拠点校会議において、年度ごとに事業を振り返り実施計画（ミニフォーラム・教員向けフォーラムの担当校の決定を含む）を策定するとともに、運営上の課題を共有し、課題改善に向けた意見交換を行う。

③地域ALネットワークホームページの作成・運営

関西ブロックの情報共有及び、開発されたカリキュラム・成果物を相互利用するためのホームページを作成する。ブログ形式で随時、探究活動の取組内容や発表会等の情報を発信し、関西ブロックに属する高校生及び教員に成果発表会等のイベントの情報や教員向けの研修会等の情報を提供するホームページ運営を行う。

(2) 人材育成校との連携

人材育成校は作成するホームページから（カリキュラム開発）拠点校の成果物や発表会の情報や教員研修等の情報を得ることができる。得られた情報を基に教員は、自校での探究活動等の発展に繋げることができ、生徒は自校以外の取組を知り、多くの学びの機会に参加することができるよう、以下の④～⑦を通して、イノベーティブなグローバル人材の育成に取り組む。

④ミニフォーラム（年2回程度）の開催

本学及び、各ALネットワークから高校生向けコンテンツを準備し、ミニフォーラムとして関西ブロックを通じて提供する。探究活動のテーマ着想のヒントとなる題材、またキャリア構築に向けた題材を主に提供する。コンテンツは拠点校会議において、管理機関となっている大学からの提供を含めて募集する。

⑤高大連携事業

本学で一部の高校に向けて実施している大学授業の受講について、関西ブロックの管理機関も含めて、人材育成校への拡大の検討を開始する。

⑥教員向けフォーラム（年2回程度）の開催

拠点校会議において担当校を決め、イノベーティブなグローバル人材育成に資する活動に向けた教員向けフォーラムを開催する。教員向けフォーラムにおいては、人材育成校の教員に、授業等を実施するにあたり必要となる資質能力を取得するために先進校のノウハウを提供する。また、関西ブロックの高校の教員間で、探究活動の指導に際して相互に情報共有を行う機会を設定する。

⑦人材育成に係る評価指標の活用

本学で開発した探究活動の評価指標を提供し、各校のイノベーティブなグローバル人材育成にかかる活動成果の評価を支援する。人材育成校に評価指標を説明し、本学の研究への協力を要請する。

(3) 他地域ALネットワークとの連携

⑧全国の地域ALネットワーク間の情報共有

名古屋大学、広島大学及び今後採択される予定の関東地区の地域ALネットワーク拠

点と情報共有を行い取組の充実を図るとともに、全国的なWWLコンソーシアム構築に向けて連携を図る。

⑨成果発表会の連携

関西ブロックの各ALネットワークで行われている探究活動の成果発表会を連携させ、相互参加を促すことで規模の拡大及び連携の強化を図る。他ALネットワークの成果発表会に参加できるようにすることで、新たな学びを得られるとともに、高校生・学校間の交流の促進にもつながる。テーマや成果を拠点校会議で共有し、関西ブロックの活動の活性化を図る。

(4) 実施体制の整備

⑩自己評価、検証委員会（年1回）の開催

関西ブロックの活動の自己評価を行い、活動を検証委員会で検証する。この関西ブロックの自己評価を行うために、基礎資料として関西ブロックに自己評価を求め、関西ブロックの活性化を促す。

(5) 広報・普及活動

⑪広報及び人材育成校の拡充

関西ブロックの活動を広報し、従来のWWL事業と関わりがなかった高校にもイノベーター的なグローバル人材育成の必要性と可能性を普及させるにあたり、これから作成するホームページを案内し、興味・関心を持った高校に資料を送付すると共に事業説明を行う。

⑫新規に採択されたALネットワークの地域ALネットワークへの勧誘

今後関西地域に新規のWWL拠点校が採択された際には、拠点校に対し、関西ブロックの情報を提供し、参加を促す。

(6) 財政等支援

⑬財源の確保に向けた取組

グローバル人材育成を目的とした産学協同による財政支援について、企業への交渉を検討する。

(7) 不慮の事態への対応

⑭感染症など不慮の事態への対応

感染症などの不慮の事態により、予定どおりの事業を実施することが困難となった場合は、オンラインの活用、代替プログラムの準備など、可能な限り事業の実施に努める。

5. 業務実施体制

業務項目	実施場所	担当責任者
(1) ①推進委員会	大阪教育大学・オンライン	広谷 博史
②拠点校会議	大阪教育大学・オンライン	広谷 博史
③ホームページの作成・運営	大阪教育大学	榎木 泰介
(2) ④ミニフォーラムの開催	大阪教育大学・オンライン	大内田 裕
⑤高大連携事業	大阪教育大学	斐 光雄
⑥教員向けフォーラムの開催	大阪教育大学・オンライン	寺嶋 浩介
⑦人材育成に係る評価指標の活用	大阪教育大学	仲矢 史雄
(3) ⑧地域ALネットワーク間の情報共有	大阪教育大学	広谷 博史
⑨成果発表会の連携	大阪府内	鈴木真由子
(4) ⑩自己評価、検証委員会の開催	大阪教育大学	堀 真子
(5) ⑪広報及び人材育成校の拡充	大阪教育大学	瓜生 彩子
⑫地域ALネットワークへの勧誘	大阪教育大学	瓜生 彩子
(6) ⑬財源の確保に向けた取組	大阪教育大学	広谷 博史
(7) ⑭感染症など不慮の事態への対応	大阪教育大学	広谷 博史

6. 事業項目別実施期間

事業項目	実施期間（令和5年6月1日～令和6年3月31日）									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①推進委員会		●						●		
②拠点校会議	●				●				●	
③ホームページ	→									
④ミニフォーラム							●		●	
⑤高大連携事業						●				
⑥教員向けフォーラム						●				●
⑦評価指標の活用					→					
⑧地域ALネットワーク間情報共有	●			●						
⑨成果発表会							→			
⑩自己評価、検証委員会									●	
⑪広報及び人材育成校拡充	→									
⑫地域ALネットワークへの勧誘									●	
⑬財源の確保に向けた取組	→									
⑭不慮の事態への対応	→									

【担当者】

氏名	役職名（Eメールアドレス）	電話番号	FAX番号
河島 司	附属学校課教育研究係長 (fuzoku@cc.osaka-kyoiku.ac.jp)	072-978-4016	072-978-3262

Ⅱ. 事業報告

(1) ホームページ

本学は今年度より関西地域に所在するALネットワークを取りまとめ、文部科学省が進めるWWLコンソーシアム構築に向けて、事業の取組を開始した。本事業ではWWL専用ホームページ（以下、web サイト）を作成することが求められており、関西地域に所在するALネットワークの成果を共有するためのweb サイトを作成した。今年度、web サイトには主に以下の内容を掲載した。

- ① 関西地域に所在する拠点校及びイノベティブなグローバル人材を育成する高校（以下、人材育成校）情報
- ② 本事業概要の説明
- ③ 生徒向けフォーラムのお知らせ（告知）と報告

①では関西地域に所在する拠点校のWWLコンソーシアム構築支援事業で得られた成果が掲載されているweb ページと人材育成校のweb ページへのリンク先を掲載し情報を一元化した。②では地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク構築のための委託事業の趣旨・目的、本学がどのように取り組むのか概要説明を掲載した。③では高校生を対象に、高度かつ多様な科目内容を生徒自身の興味・関心に合わせて学べるように様々な内容のミニフォーラムを開催することになっており、ミニフォーラムの開催案内や、開催した内容を随時掲載した。

次年度は上記①～③を随時更新し、各ALネットワークで開催される高校生国際会議や課題研究発表会等の情報も集約し、関西ブロック内で開催される行事予定をホームページで示し、人材育成校の生徒へも発表の機会を提供する。また、生徒向けのミニフォーラムの案内だけでなく、教員向けフォーラムの案内もできるようにweb サイトの設定を行ったので、周知していく。その他、関西ブロック関係校に対して、会員専用ページにて、成果の共有やコンテンツの提供を行う計画である。

(2) ミニフォーラム等

1. ミニフォーラム

今年度はミニフォーラムを2回実施した。それぞれの内容を以下に報告する。

<第1回>

テーマ：研究について考えよう ～これから始める探究活動～

開催日時：令和5年12月16日（土）13：30～15：00

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパス中央館2階212講義室

講師：大阪教育大学 岡部 舞特任講師

内容：以下に分けて講義・演習を実施

- ① 探究活動とは
- ② テーマを決める
- ③ テーマの下調べ
- ④ リサーチクエスチョンを立てる
- ⑤ 研究計画を立てる
- ⑥ 研究倫理

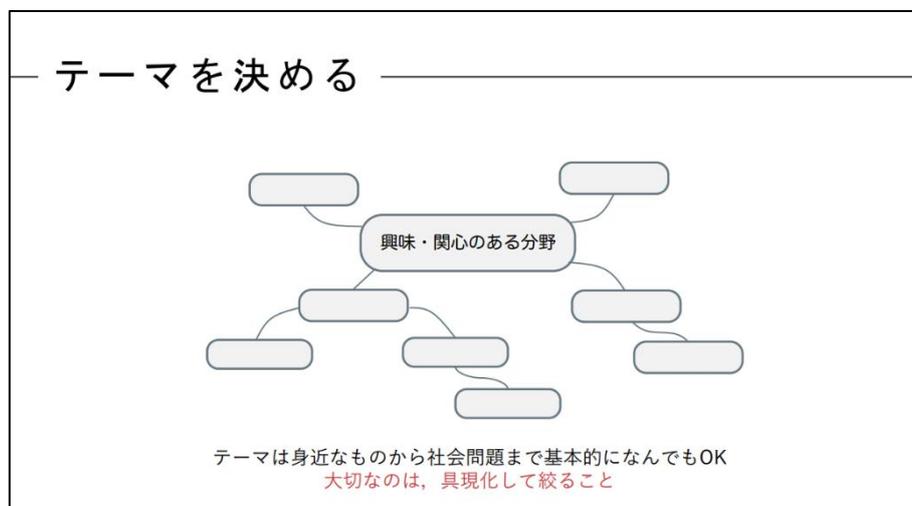
参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎（帝塚山学院高等学校は当日欠席）

《①探究活動とは》

探究活動に取り組むにあたり、高校で取り組む必要性や、高校や大学等を卒業し社会に出た際には自身の疑問や社会や会社等での課題を発見し、それを解決するために発展的に課題や問題解決を繰り返していくことが今後求められることを説明した後に探究活動のプロセスや進め方について説明を行った。

《②テーマを決める、③テーマの下調べ》

テーマを決めるにあたり具現化するためにワークシート（図1）を用いて、生徒が興味・関心のある分野について考える時間を設けた。

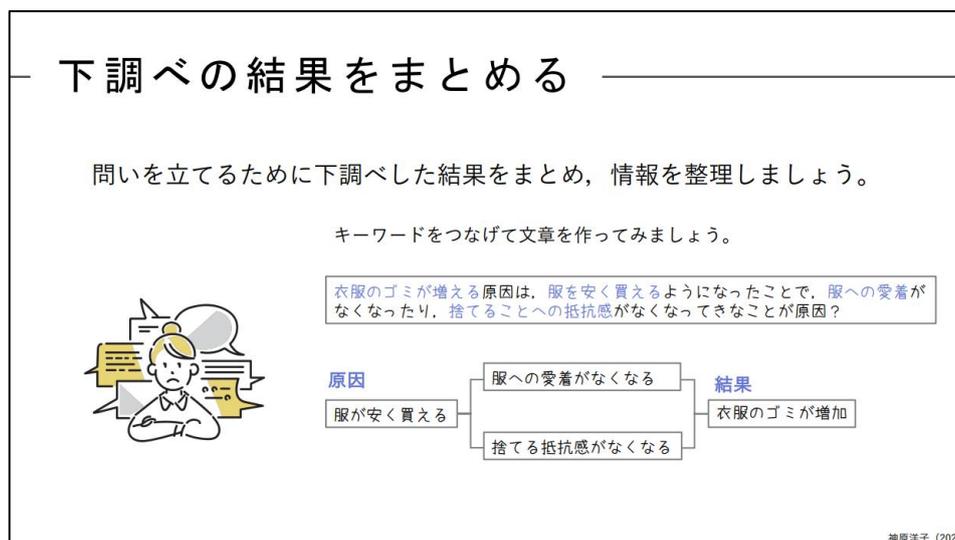


（図1 ワークシート）

続いて、テーマの下調べの必要性について説明を行った。テーマの下調べの方法として、フィールドワーク、インタビュー、インターネットからの情報収集が挙げられた。特に下調べをするにあたり、検索したURLや記事等の記録の作成や、情報元が正しい情報かどうか確認する重要性について説明すると共に、検索サイトとして「CiNii」「J-STAGE」を紹介した。その際、情報は日々更新されることから検索した日時も記録するように併せて紹介した。

また、下調べした結果についてまとめるにあたり、情報整理の方法として「キーワードを繋げて文章を作成する」「原因と結果がわかるように図にしてキーワード並べる」ことを説

明し、記入したワークシートを基に生徒に考えさせた（図2参照）。

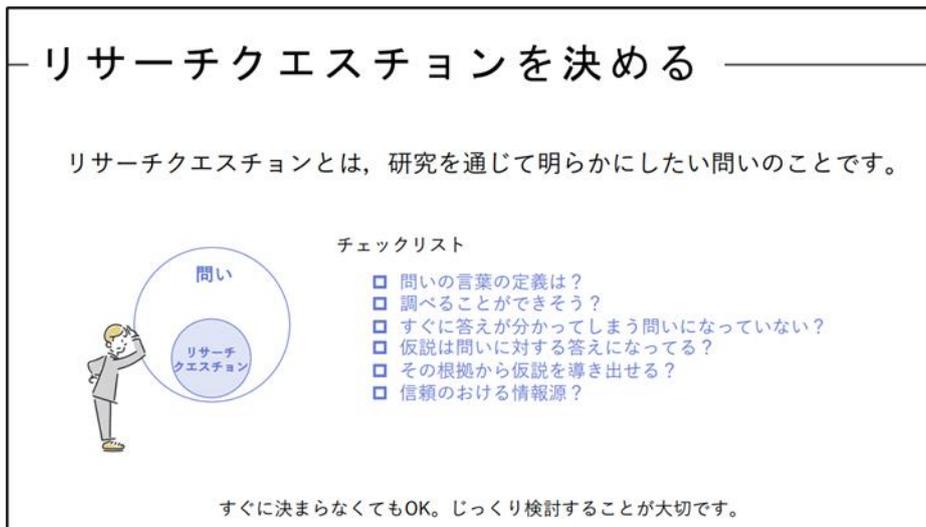


(図2 下調べの結果まとめ例 神原洋子 (2020))

《④リサーチクエスチョンを立てる》

リサーチクエスチョンとは、研究を通じて明らかにしたい問いである。リサーチクエスチョンを立てるにあたり、自身が考える問い→調査（暫定的な答え）→新たな問い→調査（暫定的な答え）というサイクルを繰り返し、問いを発展させ作り上げるものである。問いを発展させるにあたり、時間軸と空間軸、立場軸の切り口で追加の問いを考えることについて紹介した。

さらにぶつける問いについて、5W1H のような視点で考えることも併せて紹介し、リサーチクエスチョンを生徒に考える時間を設けた。リサーチクエスチョンは簡単にできるものではなく、「自分やグループが興味を持って取り組めそうか」「追究していく価値がありそうか」という視点を持ち続けることができるかどうか重要であり、じっくり検討する大切さも併せて説明した。リサーチクエスチョンを立てる上で、問いが固まってきた際のチェックポイントとして、次ページ図3に記載の6点を示した。6点のうち、1点もかけることなく繰り返し、問いを見直し磨いていくことが必要である。



(図3 リサーチクエスチョンを決めるチェックリスト例)

《⑤研究計画を立てる》

リサーチクエスチョンの種類によって探究の進め方は変わる(図4参照)。主に大きく2つ、論証型と提案型に分かれる。論証型にはアンケートやインタビュー等の自然科学的な調査と文献調査に分かれる。自然科学的な調査ではインタビューやアンケート項目の精査が必要になるので、十分な下調べが必要になる。調査するにあたっては、先行研究の方法を真似てみることを一つの方法として紹介した。文献調査は文献から多くの根拠を見つけ、いく作業を進める。



(図4 主な探究の進め方 神原洋子 (2020))

《⑥研究倫理》

研究を進めるうえで、誰かが作成した文章や図（著作物）を利用する際は適切に提示する・引用することを説明した。自身の主張を補強する場面や補足説明したい場面等、引用方法を紹介した（図5）。

研究倫理

引用の仕方をご紹介します。

補強したいとき

- データを引用して、主張の実証性を担保する
- 違う立場の主張を引用して、自分の主張の方がより説得的であると示す
- 同じ立場の主張を引用して、主張の客観性を担保する

補足説明したいとき

- 定義を引用
- 理論を引用

参考：佐渡島紗織・ディエゴオリベira・嶺田大海・ニコラス・デルグレゴ(2020)『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』大修館書店。

(図5 引用方法)

講義終了後に参加生徒に取ったアンケートの回答では、全員（4名）が今後の探究活動に活かそうかという質問に対し「活かそうだ」「少し活かそうだ」と回答があった。自由記述では、「プレゼンテーションの仕方についてもっと学びたい」「研究方法について詳細に勉強したい」といったコメントがあり、参加生徒の探究活動への意欲の高さがうかがえた。



演習に取り組む生徒



講義する岡部 舞特任講師

<第2回>

テーマ：探究活動を深化させる大学教員による助言講座

開催日時：令和6年3月9日（土）9：30～11：15

開催場所：大阪教育大学附属高等学校平野校舎 合同教室・社会科教室

講師：大阪教育大学 鈴木 真由子教授、瓜生 彩子教授、寺嶋 浩介教授、
大内田 裕准教授、榎木 泰介准教授、岡部 舞特任講師

内容：生徒の発表を通じて、質疑応答を交え大学教員による今後の探究活動を充実させるにあたっての助言を行う。

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎・附属高等学校池田校舎
（WWL連携校）奈良女子大学附属中等教育学校
（その他）神戸龍谷高等学校、桃山学院高等学校

探究活動に取り組む高校生を対象に現在取り組んでいる（取り組んだ）探究活動の発表を行うとともに、他校の生徒の発表を聞き、互いに学び合うこと、大学教員からの助言を受けて、今後の探究活動をより深化させることを目的に、大学教員による助言講座を第2回ミニフォーラムとして開催した。

2会場で実施し、各会場3グループが発表した。以下のスケジュールのとおり、1グループあたり、生徒による口頭発表10分、質疑応答と大学教員による指導・助言10分の計20分で実施した。

時程	会場 A	会場 B
9：30～9：35	開会挨拶・教員、発表者紹介・アイスブレイク等	
9：35～9：55	発表①（口頭発表10分+質疑応答・指導・助言10分）	
9：55～10：15	発表②（口頭発表10分+質疑応答・指導・助言10分）	
10：15～10：35	発表生徒・大学教員交流（+休憩）	
10：35～10：55	発表③（口頭発表10分+質疑応答・指導・助言10分）	
10：55～11：10	発表生徒・大学教員交流（+休憩）	
11：10～11：15	閉会挨拶・アンケート回答依頼	

講師を担当した本学教員は生徒の発表に対し、研究の進め方や調査方法、悩んでいることや限られた発表時間での発表の心得などの助言を行った。発表後には生徒と本学教員と交流の機会を設け、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換を行った。

発表した生徒へのアンケートでは、「今後の探究活動に活かせそうですか」という質問に対し、回答者全員（10名）が「とても活かせる」と回答した。また、そのように回答した理由について、「大学教員からコメントをもらうことはあまりなく、とても学びになった」「プレゼン力を向上させるようなテクニックを学ぶことができ、今後しなければならないこと

が明確になるなど、研究活動を行うにあたり有益な情報がたくさん得られた」といったコメントがあり、発表した生徒にとって今後の探究活動の充実に資する実りのある講座となった。



生徒による発表の様子



質疑応答の様子



助言する大内田 裕准教授



発表後に交流する生徒と鈴木 真由子教授

今年度は2回いずれも探究活動の充実に資する内容で参加者を募集したが、参加者は限定的であった。今年度実施した課題を踏まえ、次年度は対面だけでなく、オンデマンドやオンラインでの実施を検討する。また、ミニフォーラムだけでなく、著名な研究者による講演会をはじめ、高校生に対して刺激となる、また、自身のキャリア形成に繋がる内容で実施を計画している。本学を中心に高校生向けコンテンツを準備し、ミニフォーラムとして関西ブロックに提供する計画である。

2. その他

<オンラインミーティング>

OKU-WWL Student Online Meeting

内 容：SDGsに関するディスカッション

開催日時：令和5年9月27日（水）16：00～17：30

開催場所：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

実施方法：オンライン（webex）

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎・附属高等学校池田校舎

（本学WWL連携校）大阪府立住吉高等学校

（人材育成校）大阪府立寝屋川高等学校

（拠点校）京都先端科学大学附属高等学校・京都府立鳥羽高等学校

（海外連携校）高雄師範大学附属高級中学

WWL事業で得られたネットワークを活用し、拠点校である平野校舎が共同研究を進めている高雄師範大学附属高級中学とのオンラインミーティングを9月に実施した。本学ALネットワーク連携校だけでなく、関西ブロック関係校にも周知し50名の生徒が参加した。当日を迎えるにあたり、自己紹介用のスライド作成やそのスライドを用いた3分ほどの自己紹介の事前準備等を含めてwebexアプリを活用し実施した。当日は緊張した様子で初対面の相手に英語で話していたが、クイズや自己紹介を通じ、その後グループに分かれて行った「各自が考える社会課題に関する発表」では活発な意見交換ができ、本学ALネットワーク以外の生徒との交流が実現した。次年度以降も海外の高校生等との交流を継続し、グローバル人材の育成に繋げる計画である。



OKU-WWL Student Online Meetingの様子

(3) 高大連携事業

本学初等教育課程小学校教育専攻夜間コースで一部の高校を対象に実施している授業の受講について、学内調整を開始した。初等教育課程に対して事業説明を行い、対象校を拡大することについて、理解を得た。次年度は学内事務担当や受入にあたっての諸課題を整理し、関西ブロック関係校に説明を行い、令和7年度受入れ開始に向けて、準備を進める。

(4) 教員向けフォーラム等

1. 教員向けフォーラム

例年11月に本学WWL拠点校である附属高等学校平野校舎が実施している探究学習研修会の案内に関西ブロック関係校に周知し、本学関係者を含めて55名が参加した。WWL事業で得られた探究活動の成果を本研修会において発信した。今年度は第一部として、「教科における探究学習のあり方について」をテーマに数学と理科の研究授業を公開した。その後、第二部として「教科における探究学習の考え方と実践」をテーマに、研究協議を行い活発な意見交換を行った。最後にWWL事業のカリキュラム・アドバイザーである八田 幸恵准教授による研究授業や研究協議を踏まえた指導・助言を行った。

参加校：大阪教育大学附属高等学校池田校舎

(本学WWL連携校) 奈良女子大学附属中等教育学校

(人材育成校) 大阪府立夕陽丘高等学校、近畿大学附属高等学校、清風高等学校

(拠点校等) 関西学院高等部、関西学院大学

(その他) 大阪緑涼高等学校、大商学園高等学校、大阪府立河南高等学校

大阪府立茨木工科高等学校 他

3月のミニフォーラムの開催に併せて、探究活動に関する情報交換会を計画してしたが、開催は難しいと判断し中止とした。

2. 研修コンテンツの作成

本学は教員養成フラッグシップ大学として、全国の教員や教員志望者に対して、いつでもどこでも自由に学べるオンライン教員研修プラットフォーム「(※) OKUTEP (Osaka Kyoiku University Teacher Education Platform)」を7月より始動している。OKUTEPとは、デジタルバッジとマイクロラーニングを取り入れた先進的なオンライン研修プラットフォームで、いつでも誰でも受講することができるシステムである。さらに、連携する教育委員会に所属する教員に、履修証明としてデジタルバッジを発行することで、履修履歴の可視化を進めつつ、教員の自律的な学びを支援している。

そのシステムを活用し、WWL事業で得られた成果である「総合的な探究の時間」を柱にしたカリキュラムマネジメントを基に、探究活動の指導の参考となるコンテンツを作成し、広く成果を発信する(令和6年4月より公開予定)。WWL事業で得られた成果をコンテンツとしても発信していく。アドバンスト・ラーニング・ネットワーク拠点校会議においても、

多忙な教員が隙間時間に視聴できるコンテンツがあると良いという声もあり、高校教員にとっても、有効であると考える。

(※) 令和6年4月に「OZONE-EDU」に名称変更

3. 各ALネットワークでの授業公開等の案内

アドバンスト・ラーニング・ネットワーク拠点校会議において、各ALネットワーク等で公開授業研究会や教員向けの研修会等の周知を要請した。今年度はWWL拠点校の京都先端科学大学附属中学校高等学校での公開研究授業大会、奈良県立国際高等学校でのWWL成果報告会を関西ブロック関係校に周知し、関西ブロック間での成果共有を実施した。

(5) 成果報告会（国際会議）等の連携

関西ブロックの各ALネットワークで行われている探究活動の成果発表会を連携させ、相互参加を促すことで規模の拡大及び連携の強化を図るために、今年度開催したアドバンスト・ラーニング・ネットワーク拠点校会議において、成果発表会や高校生国際会議等に人材育成校の生徒が参加できるように各ALネットワークへ可能な範囲で各ALネットワークに属さない高校の生徒の受入について要請した。ALネットワーク外の生徒にとっては新たな学びを得られるとともに、高校生・学校間の交流の促進にも繋がる。テーマや成果を拠点校会議で共有し、関西ブロックの生徒や教員の活動の推進を図りたい。次年度に向けて上記(1)ホームページの内容と重複するが、作成したwebサイトに各ALネットワークのWWL関連行事予定をあらかじめ示すことで、関西ブロックの生徒や教員の活動の活性化に結びつける。

(6) 広報及び人材育成校の拡充

WWL事業と関わりがなかった高校にイノベーティブなグローバル人材育成の必要性和可能性を普及させるにあたり、大学教員が事業への呼びかけを行い、2校（近畿大学附属新宮高等学校、大阪府立東高等学校）が新たに人材育成校に加わった。引き続き、WWL事業の成果・普及させるためにwebサイトの充実や人材育成校の拡充に取り組む。

Ⅲ. 会議報告

1. 大阪教育大学地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク関西ブロック推進委員会

大阪教育大学地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク 関西ブロック推進委員会委員名簿

	根拠規程	役職等	氏名
委員長	第4項第1号	副学長	広谷 博史
副委員長	第4項第2号	学長補佐	鈴木 真由子
	第4項第3号	委員長が指名する職員	榎木 泰介
			大内田 裕
			裴 光雄
			寺嶋 浩介
			仲矢 史雄
			堀 真子
			瓜生 彩子
			岡部 舞
			筒井 瑞貴

<第1回>

1 日 時 令和5年7月24日(月) 10:30~12:00

2 形 態 図書館3階理事室(ハイブリッド会議)

3 議 題 (1) 令和5年度事業計画について

① 推進委員会の開催

② 拠点校会議の開催

③ 地域ALネットワークホームページの作成・運営

④ ミニフォーラムの開催

⑤ 高大連携事業

⑥ 教員向けフォーラムの開催

⑦ 人材育成に係る評価指標の活用

⑧ 成果発表会の連携

(2) その他

4 概 要 ・ 委員への事業概要及び事業計画の説明

- ・ 大学教員の本事業担当割振
- ・ 関西地域の管理機関・拠点校との連絡方法について

<第2回>

- 1 日時 令和5年10月18日(水) 9:30~10:52
- 2 形態 図書館3階理事室(ハイブリッド会議)
- 3 議題
 - (1) 地域ALネットワークホームページの進捗状況
 - (2) 令和5年度ミニフォーラム・教員向けフォーラム
 - (3) 令和6年度の事業実施計画について
 - ①ミニフォーラムの開催
 - ②高大連携事業
 - ③教員向けフォーラムの開催
 - ④成果発表会の連携
 - (4) 関西ブロック国際会議等の実施状況の整理について
 - (5) その他
- 4 概要
 - ・ web ページの進捗状況及び意見交換
 - ・ 今年度及び次年度のミニフォーラム・教員向けフォーラムの計画
 - ・ 高大連携事業の検討と方向性の確認
 - ・ 関西ブロックのWWL関連イベントの情報集約

<第3回>

- 1 日時 令和6年2月16日(金) 10:30~11:40
- 2 形態 オンライン(Teams) 図書館3階会議室より配信
- 3 議題
 - (1) ミニフォーラム・教員向けフォーラム(3/9)について
 - (2) 令和6年度事業計画書の提出について
 - (3) 各ALネットワークの取組状況を踏まえての
関西ブロックの検証について
 - (4) その他
- 4 報告
 - (1) 第1回ミニフォーラム(12/16)について
 - (2) 高大連携事業について
 - (3) その他
- 5 概要
 - ・ 3月のミニフォーラム等の実施予定
 - ・ 令和6年度事業実施計画

- ・第1回ミニフォーラムの実施報告
- ・高大連携事業の進捗

2. アドバンスド・ラーニング・ネットワーク拠点校会議

<第1回>

- 1 日時 令和5年7月28日(金) 10:30~11:30
令和5年8月1日(火) 10:30~11:30
- 2 形態 オンライン (Zoom)
- 3 議題 (1) 事業概要について
(2) 令和5年度事業計画について
 - ①拠点校会議の開催
 - ②地域ALネットワークホームページの作成・運営
 - ③ミニフォーラムの開催
 - ④高大連携事業
 - ⑤教員向けフォーラムの開催
 - ⑥人材育成に係る評価指標の活用
 - ⑦成果発表会の連携
- (3) その他
- 4 概要 ・地域ALネットワーク構築のための委託事業実施に係る事業説明
・今年度の事業計画
・高大連携実施状況の情報共有
・事業に係る連絡手段について
- 5 参加機関等
大阪教育大学、奈良県教育委員会、奈良県立国際高等学校、神戸市教育委員会
学校法人永守学園、京都先端科学大学附属高等学校、京都府教育庁
京都府立鳥羽高等学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎・池田校舎
学校法人立命館、関西学院高等部、大阪府教育庁、大阪府立北野高等学校
滋賀県教育委員会、滋賀県立彦根東高等学校

<第2回>

- 1 日時 令和5年11月8日(水) 15:00~15:57
- 2 形態 オンライン (Zoom)
- 3 議題 (1) 地域ALネットワーク関西ブロックのホームページについて

- (2) 各 AL ネットワークの WFL 事業の取組状況について
- (3) 令和 5 年度ミニフォーラム・教員向けフォーラムについて
- (4) 令和 6 年度事業計画について
 - ① ミニフォーラム・教員向けフォーラム
 - ② 高大連携事業
 - ③ 成果発表会
- (5) その他

- 4 概要
 - ・web ページの確認依頼
 - ・各 AL ネットワークにおける WFL 事業行事の情報共有
 - ・高大連携実施状況の情報共有

5 参加機関等

大阪教育大学、奈良県教育委員会、奈良県立国際高等学校、神戸市教育委員会
学校法人永守学園、京都先端科学大学附属高等学校、京都府教育庁
京都府立鳥羽高等学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎・池田校舎
学校法人立命館、関西学院高等部、大阪府教育庁、大阪府立北野高等学校
滋賀県教育委員会、滋賀県立彦根東高等学校

